

豊水

サガラメ（相良布）

かつて静岡県榛原地方の南部を中心とする海域（榛南海域）には、サガラメと呼ばれる大型の海藻が繁茂していました。「サガラメ」は「相良布」とも書き、その意味合いは静岡県「相良」地方に生えている「布（メ）」（“メ”とは大きく生長し、葉状の体を形成する海藻、ワカメ：若布）となります。以前は新芽を味噌汁に入れたり、生長した葉を筍と煮物にしました。しかし、昭和 60 年頃から海からサガラメがなくなる“磯焼け”が進行し、現在、この海域ではほとんど見ることはできません。

サガラメは、我々が目にしている“孢子体”と呼ばれる葉状のものと、この“孢子体”から放出された孢子が生長し、顕微鏡下でしか見ることが出来ない非常に微小な糸状の状態からなります。この微小な糸状のものを“配偶体”と呼び、通常は岩などに付着し、その後成熟して再び孢子体となります。

一方、深層水には植物の生長に必要な栄養分である窒素、リンを豊富に含んでいます。そのため、植物であるサガラメの生長にとって、良い海水だと考えられます。

本施設では、駿河湾深層水を飼育海水として、孢子体と配偶体の生長を調べており、今後その結果を“豊水”で報告していく予定です。



雄配偶体



雌配偶体

（顕微鏡下 100 倍で観察）

（深層水研究室 二村和視）